

## 都市構造と効率的交通・運輸システムの整備・運営に向けての(総合的)交通政策の研究

主査 松澤俊雄(大阪市立大学大学院教授)・石田信博(同志社大学教授)

地域・都市の交通政策課題としての混雑緩和、環境対策、エネルギー使用の抑制、都市中心部の活性化等の面から、自動車利用の適正化を目指し、交通施設の整備・運営を個別交通と公共交通、さらには、同じ道路空間を用いる人的交通と物的交通を含めて一体的に考える総合的交通政策的視点からの理論的・制度的・実証的研究を行った。自動車交通の必然性を前提にしつつ、物資輸送においては合理化策を追求するとともに、人的輸送においても個別(自家用)交通機関と公共交通機関間の適切な分担を図るべく地域・都市における限られた交通空間(資本)を利用して、道路交通システムと鉄軌道公共交通システムによる統合的で、全体として効率性・公平性を満たす交通・輸送体系とその政策の方向性の研究を進めてきた。

全体研究会では、「自動車の二酸化炭素排出量の計測と推定」「モーダルシフトー内航海運と自動車ー」「地方都市における持続可能な公共交通政策のあり方についての考察」「地域・都市交通の性質をふまえた政策の方向性について」「交通基本法及び関連施策等について」「日本の鉄道草創期」「Barro 型 CES 関数に基づく SCGE モデルによる地域間交通整備の便益評価」「京阪神交通圏の鉄道需要と都市構造」「低炭素社会における都市交通機関の推計」「非集計モデルによる交通機関分担推計プロセス」「日本の財政と税制改革」「ボストンの都市・都市交通政策」「都市公共交通ネットワークと運営」「フランクフルトの都市・都市圏交通システムの動向」「スイスの Takt 乗継ダイヤシステム」「次善の混雑料金政策について」「都市道路網課金政策に関する実証的分析」「家庭部門 CO<sub>2</sub> 削減の目的と手法」「インテグレーターとグローバル・ロジスティクス・システム」のテーマのもと、研究報告が行われた。

部会においては、都市(域内)バスの規制緩和と効率性・利用者の厚生に関する議論をテーマとする論文や、交通経済論・公共経済論の論文を題材にした勉強会を数回開催した。

他の研究会との共同で開催している文献研究会では、「都市バス規制緩和の評価(英国のケースを中心に)」(Trans.Rev.)、「道路運送における結合生産と運賃」(JTEP)、「タクシー事業における規制緩和と輸送効率性」(JTEP)、「交通手段選択の仕方とトリップ連鎖の関係」(Trans.Res.A)、「都市バスおよび都市間バス輸送における規模の経済性と範囲の経済性」(JTEP)、「フランス公共交通の課題」(Trans.Policy)、「鉄道貨物輸送事業者合併の効率性」(JTEP)等の論文紹介があった。

また部会を中心に、これまでのデータベースの拡充や、今後の分析に資する予定のピーク時鉄道・自動車交通に関するデータベースの形成にも努めた。